



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の文法構造：前置詞と後置詞（1）
Author(s)	清水， 誠
Citation	北海道大學文學部紀要， 46(1)， 23-62
Issue Date	1997-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33692
Type	departmental bulletin paper
File Information	46(1)_PL23-62. pdf



西フリジア語の文法構造 — 前置詞と後置詞 (1) —

清水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk

— ferhâldingswurd (1) —

(The Annual Report on Cultural Science 46-1 (No.91). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan 1997. ISSN 0437-6668)

SHIMIZU Makoto

VIII 前置詞と後置詞 (it ferhâldingswurd)

§ 59 はじめに

西フリジア語では前置詞 (de preposysje, § 60, 61) のほかに後置詞 (de postposysje, § 62, 63) が発達している。また、‘前置詞＋名詞句＋後置詞’のように両者をともに用いる表現がオランダ語に比べて多い (例. nei Fryslân ta「フリースラントへ」)。この場合、‘[[前置詞＋名詞句]＋後置詞]’のように後置詞が前置詞句を支配している。つまり、後置詞には名詞句を支配するものだけでなく、前置詞句を支配するものがある。同様に前置詞にも名詞句を支配するものだけでなく、‘[前置詞＋[前置詞＋名詞句]]’のように前置詞句を支配するものがある (§ 61 (2))。

- ☞ ‘名詞句＋後置詞＋後置詞’という組み合わせはない。
- ☞ 伝統的には後置詞を認めず、副詞として扱っていることがある。
本書では後置詞を認める立場をとる。

西フリジア語の後置詞はドイツ語のように比較的新しい時代に他の品詞などから発達した二次的なもの（ド．*entlang*「…に沿って」、*halber*「…のために」など）ではなく、*yn*「…の中へ」、*út*「…から」、*troch*「…を通して」などのように本来の一次的な語形を示すものがほとんどである。前置詞と同形の後置詞は前置詞に比べて、動作の方向、あるいは動作の達成を表わす完了アスペクトの意味を表現することが多い (§ 62 (1))。

VII「*der*」で述べたように、‘前置詞＋（おもに物事を示す）代名詞’は少数の例外 (§ 61 (4)) を除いて‘*der*(…)前置詞’となる。このとき、前置詞は「代名詞の *der*」の後に置かれており、じつは「後置詞」としてはたらいっている。つまり、語順から見ると、前置詞は名詞句を伴うときには「前置詞」であり、代名詞を伴うときには「後置詞」である。その代名詞は *der* のほかに *dêr*, *hjr*, *wêr* のように *r* で終わるものが多く、「*r*-代名詞」（エ．*r*-pronoun）と総称されることは § 54 で述べた。前置詞が語順から見て「後置詞」としてはたらいっている場合には、その目的語である「代名詞の *der*」は分離することができ、いわゆる「前置詞の残留」が見られる。§ 55 (4) でも述べたように、一般に *der* と前置詞は動詞（または形容詞）の補足成分 (*it komplemint*) である場合には分離するのが望ましく、付加成分 (*de adjunkt*) である場合には分離しない (§ 61 (5))。なお、本書ではこのように「後置詞」として用いられた場合の前置詞も前置詞と称し、以下に述べる本来の後置詞と区別する。

一方、本来の後置詞では‘代名詞＋後置詞’となるが、このときの代名詞は「*r*-代名詞」ではなく、指示代名詞中性単数形 *dit*, *dat* と疑問代名詞 *wat* であり、後置詞が残留するために上記のような条件はない (§ 62 (3))。

このように、前置詞と結びつく文成分が分離できるのは、語順から見て「後置詞」としてはたらく場合に限られる。一方、本来の後置詞は語順から見てつねに後置詞であり、上述のように名詞句と代名詞の両方について分離が可能である。つまり、西フリジア語では $X + P$ (X : 名詞句、代名詞; P : 前置詞、後置詞) という語順の場合にのみ X は分離できる。これはオランダ語やドイツ語の方言（とくに低地ドイツ語。標準ドイツ語では不可）でも同様である。

前置詞：‘前置詞＋名詞句’：分離不可能

‘der などの「r-代名詞」＋前置詞 (= 「後置詞」)’: 分離可能

後置詞：‘名詞句＋後置詞’：分離可能

‘der などの「r-代名詞」以外の代名詞＋後置詞’：分離可能

§ 55(3)で述べたように、残留する前置詞（または後置詞）は後域の動詞成分の直前に置かれる。西フリジア語はドイツ語やオランダ語と同様に後域を動詞成分が占めて枠構造を形成し、動詞が文末に来る言語である。したがって、残留する前置詞は基本語順としてつねに動詞の直前に置かれていることになり、これと隣接する必要がある（「隣接条件」）。動詞（または形容詞）の補足成分である前置詞句の前置詞は「再分析」（エ. reanalysis）によって動詞とともに新たな動詞を形成すると考えられ、このときに der は分離できると言える（ $[X+P]+V \rightarrow X...[P+V]$ （V：動詞））。前置詞句が動詞の付加成分である場合に der が前置詞から分離できないのは、このような「再分析」が不可能なためである。

ところが、西フリジア語ではオランダ語の標準語と違って、名詞句を「代名詞の der」を介在させずに離れた位置に置く‘名詞句…前置詞’という構文が可能である。つまり、名詞句についても「前置詞の残留」が見られる。

Nije dingen ha se niget oan. 「新しいものに彼らは興味がある」

(ULI'S, A 12: 7) (← *Se ha niget oan nije dingen*)

前置詞から離れた位置にある名詞句は、受動態では英語と違って主語にならず、非人称受動にとどまる。この構文の基本語順は $P+X+V$ であり、前置詞が動詞に隣接していない。この構文は「再分析」によって前置詞の目的語である名詞句を分離しているのではなく、離れた位置に提示した名詞句を前置詞と結びつく文成分として解釈していると考えられる (§ 61(6))。

西フリジア語では述語や名詞の補足成分となる従属文や不定詞句を前置詞が直接支配することはできず、「代名詞の der」を介在させることはすでに § 55(2)(a)で述べた。一方、付加成分としてはたらく副詞句では、一部の前置詞 (*sûnder* 「…なしに」, *troch* 「…を通じて」, *nei* 「…した後で」など) が従属文や不定詞句 (...te+動名詞) を導くことができる (§ 61(3))。本来の後置詞

にはこのような用法はない。

フリースラントの地名にはアイスランド語やノルウェー語などと同様に、地名の種類によって異なる前置詞を必要とするものがある (§ 61 (1))。

§ 60 前置詞 (de preposysje)

(1) 種類

前置詞には語形的に本来、前置詞であるもの (yn「…の中に」, op「…の上に」など) と、後の時代に他の品詞に属する語やその組み合わせから二次的に派生したもの (behalve(n)「…を除いて」, fanwege(n)「…の理由で」など) とがある。本来の前置詞は数が限られているが、意味・用法が多岐にわたる。二次的な前置詞は種類が多く、一般に意味・用法が特定化している。また、ynstee fan「…のかわりに」のように、複数の語で「複合前置詞」を形成することもある。

動詞・形容詞・名詞のなかには特定の前置詞（とくに本来の前置詞）を要求するものが多数ある。この場合、前置詞には語彙的な意味が認めにくいことが多い。例：

fan ... hâlde 「…を好む」	oan ... wenne 「…に慣れる」
nei ... harkje 「…に耳を傾ける」	op ... wachtsje 「…を待つ」
{oan/om} ... tinke 「…を考える」	{oan/yn} ... leauwe 「…を信じる」
oan ... skuldich wêze 「…に借り・責任がある」	
op ... grutsk wêze 「…を誇りにしている」	
by ... belang hawwe 「…に興味がある」	
fan ... misbrûk meitsje 「…を乱用する」	
op ... acht slaan 「…に注意する」	

以下では代表的なものに限って、語彙的な意味がとらえやすい用例を中心に個々の前置詞の種類と用法を示す。複合前置詞は ynstee fan「…のかわりに」だけにとどめ、慣用句の用例はできるだけ省略する。

(2) 用例

- (a) behalve(n) [bəhólvə(n)] 「…を除いて」

In wurdgroep bestiet út in oantal wurden dy't net te skieden binne en in fêste folchoarder hawwe, *behalve* tiidwurdgroepen. 「句は動詞句を除いて、分離することができず、固定した語順をもつ複数の語から成る」 (Boersma/Van der Woude 1980²: 62 変更)

- (b) by [bei, bi] 「…のもとで、…のそばで、…のときに、…に従って」

Wy betelje ús boadskippen *by* de kassa. 「私たちはレジで買い物のお金を払います」 (ULI'S, A 10:12)

Sy wennet noch *by* har alden. 「彼女はまだ両親のもとで暮らしている」 (ULI'S, A 2:18)

It gebiet dat wy it Waad neame, begjint *by* Den Helder en hâldt op *by* Esbjerg yn Denemarken. 「私たちがヴァート地帯（北海沿岸の干潟地帯）と呼んでいる地域はデン・ヘルデルから始まって、デンマークのエスビャウで終わります」 (ULI'S, B 9:7 変更)

Se binne fan doel om *by* ús te kommen. 「彼らは私たちのところに来るつもりです」 (ULI'S, A 3:10 変更)

Ik soe myn freon in brief skriuwe, mar it is der *by* bleaun. 「私は友人に手紙を書こうとしたが、そのままになってしまった」 (ULI'S, C 4:24 変更)

It is *by* tolven. 「12 時近く（＝少し前）です」

By heech wetter is it Waad in echte see. 「満潮のときにはヴァート地帯は本当の海になる」 (ULI'S, B 9:7)

Ik drink kofje *by* it iten. 「私は食事のときにコーヒーを飲む」 (ULI'S, A 3:27)

By it jier tûzen binne ús foarfaars begûn mei it opsmitten fan seediken. 「1000 年頃、私たちの祖先は海岸に堤防を築きはじめた」 (ULI'S, C 11:2 変更)

Hy is oan 't wurk *by* de oere. 「彼は時給で働いている」 (ULI'S, C 20:14)

Hy is strafber, want dat is *by* de wet regele. 「彼は有罪だ。なぜなら法律で(=法律において)そう決まっているからだ」(ULP'S, C 7: 29)

☞ *by* は行為者を示すのではない。英語の *by* とは異なる点に注意。西フリジア語では受動態の行為者は *troch* で表わす。fan は文語的。

(c) binnen [bɪnən] 「…の内側に、…以内に」

Der steane folle mear huzen òm as *binnen* de âlde stedsgrêften. 「旧市街を取り囲む運河(=古い町の運河)の内側よりも外側(=運河の外側のまわり)にずっと家が多く立っている」(ULP'S, C 11: 2 変更)

☞ òm のアクセント記号(˘)は *binnen* との対照を強調するための補助記号である。

Hjirby fersykje wy jo freonlik de stipe foar 1997 *binnen* fjirtjin dagen oan ús oer te meitsjen. 「1997 年分の会費を 2 週間以内に当方にお振り込み下さいますようお願い申し上げます」

(d) boppe [bɒpə] 「…の真上で(接触・広がり・移動を伴わない)、…のほかにも、…より北に、…の上流で」

☞ (u) oer と比較。エ. above, オ. boven 参照。

Krekt *boppe* it wetter fljocht in swerm miggen. 「水の上すれすれのところで蚊の群れが飛び交っている」(ULP'S, B 7: 7)

Ien fan de bisten bleau *boppe* him hingjen en sakke stadich nei ûnderen. 「その動物のうちの 1 羽が彼の頭上にとどまり、少しずつ下におりてきた」(ULP'S, A 6: 8)

Wat hinget my *boppe* de holle? 「(私の) 頭の上に何が掛かっているのだろう」(Bangma 1993²: 76 変更)

☞ この用例では oer を用いることはできない。比喩的な意味を表わす次の用例との差に注意。

Der hinget him noch wat *oer* de holle. 「彼の身にはまだ何かが起こる」
(Zanema 1984: 413, Visser 1985: 287)

Hylke woeks heit *boppe* de holle. 「ヒルケは父親(=父親の頭)よりも背が高くなった」(ULP'S, C 20: 4)

Dat giet *boppe* ús ferstân. 「それは私たちの理解を越えている」(Zan-

tema 1985 : 130 変更)

- (e) bûten [bútən] 「…の外側に、…以外に、…のほかに」

Us strjitte leit in eintsje *bûten* de stêd. 「私たちのところの通りは町から少しはずれたところにあります」 (ULI'S, A 8 : 7)

Men kin hobby's yn 'e hûs hawwe, mar ek *dêrbûten*. 「趣味は家の中でももてるが、外でももてる」 (ULI'S, A 19 : 19)

Bûten syn literair wurk hat Obe Postma ek fertsjinsten fan it boerelibben út earder tiden. 「文学作品以外にもオーベ・ポストマには昔の農民の生活についての業績がある」 (Stienstra 1982 : 127 変更)

- (f) efter [éftər], achter [áxtər] 「…の後ろに (おもに場所)」

De poes sit *achter* it gerdyn. 「子猫はカーテンを後ろにすわっている」

Efter de lytse winkels stiet in grutte supermerk. 「小さな店の後ろに大きなスーパーがある」 (ULI'S, A 10 : 8)

☞ 時間の表現にはおもに (o) nei を用いる。英語の after との相異に注意。

{*after/nei} it iten 「食事のあとで」

{*after/nei} de oarloch 「戦後」

{*after/nei} ien oere 「1 時よりあとで」

接続詞として用いた場合も同様。

{*after't/nei't} se thús komt 「彼女が来たあとで」

ただし、次の表現に注意。

Jier *efter* jier kamen der mear leden. 「年々、多くの会員が集まるようになった」 (Zanema 1984 : 218)

- (g) fan [fən]

- ① fan 「…の (さまざまな意味で)、…のところ・ときから、…について、…によって」

It eigene *fan* it doarp kin ferlern gean. 「村の独自のものが失われる可能性がある」 (ULI'S, C 11 : 12)

Hokker jas is *fan* dy? 「どのコートが君のものですか」 (ULI'S, B 18 : 18)

Dit is myn suster *fan* trettjin. 「これが私の 13 歳の妹です」 (ULI'S, A

2:17 変更)

De ûntfolking *fan* it plattelân wurdt tsjingien. 「田舎の過疎化はくいとめられる」(ULP'S, C 11:12)

Hy krijt in tût *fan* syn skoansuster. 「彼は義理の妹からキスを受ける」(ULP'S, A 1:15 変更)

Fryslân stiet *fan* âlds bekend as boerelân. 「フリースラントは古くから農業地域として知られている」(ULP'S, B 9:13)

De man dreamt *fan* grutte fûgels. 「その男は大きな鳥の夢を見る」(ULP'S, A 6:16)

Hy is wiet *fan* swit. 「彼は汗びっしょりだ (=汗で濡れている)」(ULP'S, A 8:23)

Wy murken net folle *fan* de hurde wyn. 「私たちは強い風をそれほど感じなかった」(ULP'S, C 12:5)

Wy hawwe der amper genôch *fan*. 「私たちはそれをほとんど十分にはもっていない」(ULP'S, C 19:32 変更)

Hy hjit *fan* Jelle. (=Hy hjit Jelle.) 「彼はイエレという名前だ」(Zantema 1985:231 変更)

Hiel wat minsken binne *fan* betinken dat de moade mar foar in lyts part *fan* it folk *fan* betsjutting is. 「流行は少数の人々だけにとって重要だという考えの人が多い」(ULP'S, C 11:4)

② 不定代名詞としての *fan*

fan には部分の属格に由来する不定の数量を表わす用法がある ([*guon/wat*] *fan*+名詞句)。本来は不定代名詞 (§ 42(3)) として扱うべきだが、説明の都合上、以下に示す。

Dit binne mei *fan* 'e moaiste fersen dy't er skreaun hat. 「これは彼が書いた最も美しい詩句のうちにはいる」(Hoekstra/Tiersma 1994:521)

Der rûnen *fan* buorman syn hinnen yn ús tún. 「隣の人のひよこ (の何羽か) が私たちの庭に入ってきた」(ib. 521)

fan に続く名詞句が複数形で主語である場合、定動詞は単数形になることもある。

Hja hawwe der belang by dat *fan* har produkten ferkocht *wurdt*, wat mear wat leaver. 「彼らは自分たちの製品が売れることに関心がある—多く売れればそれだけ結構—」(*wurdt* 単数形；複数形 *wurde* も可)
(ULI'S, C 11 : 7)

次の用例はオランダ語の *van alles* と同様に *fan alles* 全体で「さまざまな」という意味の不定代名詞(*ド*, *allerlei*, *allerhand*) とみなすことができる。

O ja, kinst hjir *fan alles* wol krije. 「ええ、ここではいろいろなものがもらえるのよ」(Bangma 1993² : 7)

Wy hawwe yn 'e fakânsje *fan alles* sjoen. 「私たちは休暇の間にいろいろなものを見た」

Fan alles soe der barre, ferskes sjonge, pakje-knippe en noch mear spultsjes soene der dien wurde. 「歌を歌ったり、プレゼントを開いたり、いろいろなことがあって、ほかにもたくさんすることになっていたことでしょう」(*soe* 単数形) (ULI'S, A 17 : 10)

'fan+it+形容詞最上級-e' という表現もある。

Dizze stik is net mear *fan it aldernijste*. 「このネクタイはもうそれほど新しくない」

☐ *fan* に続く名詞句は定冠詞や所有代名詞のような限定詞を伴うことが多い。

フランス語の部分冠詞 *du* (<*de+le*), *de la* や不定冠詞複数形 *des* (<*de+les*) との類似性に注意。

- (h) *fanwege*(n) [fɔnvé:γə(n)] 「…の理由で、…の発案・命令・由来で」
Fanwegen de drokte koe er net komme. 「多忙のために彼は来られなかった」
Fanwege it bestjoer waard in gearkomste belein. 「執行部の命令で会議が招集された」(Visser 1985 : 770)
- (i) *foar* [fwar] 「…の前に(場所・時間)、…のところ・ときに、…のために、…にとって、…に代わって、…にたいして」

Myn âlden sitte *foar* de televyzje. 「私の両親はテレビの前にすわっている」 (ULI'S, A 2 : 17)

Foar de wyn is elts in hurdrider. 「風を受ければだれでも早く走れる」 (ULI'S, A 18 : 12)

☞ yn 'e wyn op 「風に逆らって」

De âlde doarpskearn is *foar* it jier tûzen al op in terp boud. 「古い村の中心はすでに千年も前にテルプ (=盛り土) の上に作られた」 (ULI'S, C 11 : 12 変更)

It is fiif minuten *foar* achten. 「8時5分前です」

Sy breidet in pear hoazzen *foar* harsels. 「彼女は自分用に靴下を二、三足編んでいる」 (ULI'S, A 4 : 17)

Us mem bret it fleis *foar* moarn. 「母は明日に備えて肉を焼いている」 (ULI'S, C 16 : 29)

Tefolle sûker wurket ûngeunstich *foar* it bloed. 「砂糖のとりすぎは血液に悪く作用する」 (ULI'S, C 11 : 15)

Myn dochter wurket *foar* heale dagen yn it sikehûs. 「私の娘は半日、病院で働いている」 (ULI'S, C 6 : 28 変更)

Wy komme te let *foar* de trein. 「私たちは電車で遅れてしまう」 (ULI'S, C 18 : 11 変更)

- (j) yn [in] 「…の中で(場所)、…の中へ(方向)；…のときに；…において」
Do kinst al yn it Frysk telle. 「君はもうフリジア語で数が数えられる」

Set de tekst oer yn it Frysk. 「テキストをフリジア語に訳しなさい」 (ULI'S, B 12 : 7 変更)

De bern rinne yn 'e bosk. 「子供たちは {森の中を歩いている/森の中へ歩いていく}」 (場所/方向、§ 62 (2)(c))

Wy geane yn it gers lizzen. 「私たちは芝生に横になる」 (場所) (ULI'S, B 15 : 21 変更)

☞ この文は yn it gers lizzen 「芝生の中で横になっている」に状態の変化を示す *gean* がついた構造になっており、yn は方向ではなく、場所を意味する。日本語との相違に注意。

Bou in arke en gean der mei dyn gesin yn. 「方舟を作り、その中に家族とともに入りなさい」 (方向) (De Arke fan Noach)

Hy is juster yn dy hege beam klommen. 「彼は昨日、あの高い木に登った」 (方向) (ULI'S, B 7 : 21)

De ein kaam *yn* 't sicht. 「終わりが見えてきた」 (ULF'S, A 13 : 8)

Ik ha pine *yn* 'e holle. (=Ik ha pineholle.) 「私は頭痛がする」

☞ 「頭痛」という名詞は西フリジア語では pineholle, オランダ語では hoofdpijn であることに注意。

オ. Ik heb hoofdpijn. 「私は頭痛がする」

De earste bussen *yn* Fryslân begûnen te riden *yn* 1921. 「フリースラントで最初のバスは 1921 年に運転が開始された」 (ULF'S, C 18 : 7 変更)

Yn 'e simmer kin men *yn* 'e bosk moai kuierje. 「夏には林の中をすばらしい散歩ができる」 (ULF'S, A 19 : 15)

☞ *by* 't simmer 「夏に」とも言える。前置詞と定冠詞の組み合わせの相違に注意 (§ 26 (2)(d)②)。

De man arbeidet op it fabryk *yn* de nachtsjinst. 「その男の人は工場 で夜勤で働いている」 (ULF'S, C 6 : 5)

(k) *ynstee fan* [instê:fon] 「…のかわりに」

Yn 'e Wâlden binne op de skieding fan stikken lân beamwâlen te finen *ynstee fan* sleatten. 「ヴォーデン地方 (フリースラント東部の森林地帯) では水路のかわりに土地の境界に木立の壁による仕切りが見られる」 (ULF'S, B 9 : 13 変更)

(l) *mank* [majk] 「…の間に, …の真ん中に」

☞ エ. among 参照。

it plak fan it Frysk *mank* de oare talen 「他の諸言語の中でのフリジア語の位置」 (Boersma/Van der Woude 1981² : 7)

Mank tûzen frjemdlingen neam ik him mei syn eigen namme: freon. 「千人の見知らぬ人のなかで私は彼のことを彼独自の名前で友と名づける」 (Fedde Schurer: “De freon” 『友』)

Dêr leit it doarp. 't Stiet mei de toer tsjin 't Westen, dêr read de sinne *mank* de wolken sinkt. 「ここに村はある。村は太陽が雲の間に赤く沈む西に向かって立つ塔とともにある」 (Piter Jelles Troelstra :

“Ofskie”『別れ』)

☞ dêr't...sinkt とせずに dêr...sinkt をとしているのは、いわゆる「詩的自由」としての破格的な表現。

- (m) mei [mai, mɛi] 「…とともに、…を使って、…にかんして、…の状態で」
Ik wol ris *mei* jo prate. 「私はちょっとあなたと話がしたい」(ULI'S, A 2:13 変更)

Dykstra melkt de kij noch *mei* de hân. 「ディクストラはまだ手で乳をしぼっている」(ULI'S, B 11:24)

Hy wâde *mei* wiete fuotten troch de wiette. 「彼は足を濡らして (= 濡れた足で) 水たまりを渡った」(ULI'S, C 20:7)

De dokter harke *mei* oandacht nei de klachten fan syn pasjint. 「医者は注意深く患者の症状に耳を傾けた」(ULI'S, C 11:15 変更)

Us muoike hat fakentiden muoite *mei* lêzen. 「伯母はよくものを読むのに苦労する」(ULI'S, C 11:9)

Hoe is it *mei* dyn broer? 「お兄さんの具合はどうですか」(ULI'S, B 15:21)

Sy steane al *mei* har fjouweren klear. 「彼らはもう4人とも準備ができています」 (§ 40(4)(a)) (ULI'S, A 4:11 変更)

- (n) neffens [nɛfəs] 「…に従って、…に合わせて」
Sûn iten wie der *neffens* ús begrip net by. 「健康な食事というものは私たちの理解からいうと存在しなかった」(ULI'S, B 3:11)

Binne jo wol *neffens* de nijste moade klaaid? 「あなたは最新の流行の服を着ていますか」(ULI'S, C 4:9)

☞ この用例では *nei* を用いてもいい。

Binne jo wol *nei* de nijste moade klaaid? 「同上」(Zantema 1984:645 変更)

- (o) nei [nai, nɛi] 「…のほうへ、…のあとで(時間)、…に従って」
Giest jûn *nei* it toanielstik? 「君は今晚その劇を見にいきますか」
(ULI'S, C 17:16)

De dyk fan Ljouwert *nei* It Hearrenfean is in foarrangsydk. 「リア
ウエト (オ・Leeuwarden レーワルデン) からエト・イエレンフェア
ン (オ・Heerenveen ヘーレンヴェーン) までの道は優先道路です」
(ULP'S, A 18 : 15)

Ik ried op 'e fyts *nei* skoalle. 「私は自転車に乗って学校へ行った」
(ULP'S, B 6 : 2 変更)

☞ 'nei ... ta' (§ 63 (4)) を用いた次の表現も可能である。

Sy geane *nei* skoalle *ta*. 「彼らは学校へ行く」 (ULP'S, B 19 : 18)

De doar giet iepen en poes komt *nei* bûten. 「ドアがあいて子猫が外
へ出ていく」 (ULP'S, A 7 : 24)

☞ この用例も同様に 'nei ... ta' を用いて *nei bûten ta* 「外へ」と言うことが
できる。一般に 'nei + 名詞句' と 'nei + 名詞句 + ta' の間に意味の差は
とくに認められないが、西フリジア語では 'nei + 名詞句 + ta' を好んで用
いる。一方、オランダ語では 'naar + 名詞句 + toe' よりも 'naar + 名詞
句' を好んで用いる。

ただし、*der* (VII) を用いた表現としては、西フリジア語では *der* (...) *hinne*
と言わなければならない、オランダ語では *daar* (...) *naar toe* あるい
は *daar* (...) *heen* と言わなければならない。

De loft stiet *nei* reinen. 「雨が降りそうな空模様だ」 (Zantema 1984 :
645)

☞ *reinen* (← *reine* 「雨が降る」) は動名詞。 *jin nei sliepen* jaan 「就寝する」
(← *sliepe* 「眠る」) (ib. 645) も同様。

Nei de maitiid komt de simmer. 「春の後には夏が来る」 (ULP'S, A
9 : 9)

Nei 1500 kaam it Frysk gâns yn ferfal as skriuwtaal. 「1500 年以
降、フリジア語は書き言葉としてはまったく衰退した」 (Stienstra
1982 : 39)

Wy geane *nei* it iten te boadskipjen. 「私たちは食事のあとで買い物
に行きます」 (Bangma 1993² : 83)

It is my o sa *nei* 't sin. 「私はそれでじゅうぶん満足です」 (ULP'S, C

19 : 32)

nei myn betinken 「私の考えでは」

☞ この用例では *neffens* を用いてもいい。

neffens myn betinken 「同上」

- (p) *neist* [naist, neist], *nêst* [nɛ:st] 「…の横・となりに；…のほかにも」
Ik siet *neist* har yn 'e trein. 「私は電車の中で彼女の横にすわっていた」 (Bangma 1993² : 76 変更)

☞ この用例では *njonken* を用いてもいい。

Ik siet *njonken* har yn 'e trein. 「同上」

Neist ekonomyske spylje oare ynfloeden ek mei. 「経済的な影響のほかに他の影響も作用している」 (ULI'S, C 11 : 5 変更)

☞ この用例では *njonken* を用いることはできない。

**Njonken* ekonomyske spylje oare ynfloeden ek mei. 「同上」

- (q) *nettsjinsteande* [nɛ́tʃɪnstɛnde] 「…にもかかわらず」
Nettsjinsteande alle tsjinstuiten is se der net foar omlizzen gongen.
「いかなる逆境にもかかわらず、彼女はひるまなかつた」 (Zantema 1984 : 650 変更)

- (r) *njonken* [njónkən] 「…の横・となりに；…にたいして、…に比べて」
Njonken my sit in man fan in jier of fyftich. 「私のとなりに 50 歳くらい
の男の人がすわっている」 (ULI'S, B 6 : 8)

☞ この用例では *neist* を用いてもいい。

Neist my sit in man fan in jier of fyftich. 「同上」

By âlds waard it hea bewarre yn in heaberch *njonken* de pleats.
「古くは干し草は農場の母屋のとなりの干し草置き場に貯蔵された」
(ULI'S, B 11 : 7)

☞ この用例では *neist* を用いてもいい。

By âlds waard it hea bewarre yn in heaberch *neist* de pleats. 「同上」

Alders hawwe plichten *njonken* har bern. 「両親は子供にたいして義務がある」 (Zantema 1984 : 654)

☞ この用例では *neist* を用いることはできない。

*Alders hawwe plichten *neist* har bern. 「同上」

(s) oan [oən]

① 「…の表面・側面に（接して）、…宛に、…から見て、…にかんして」

De sjauffeur hie de hannen *oan* it stjoer. 「運転手は両手をハンドルに当てていた」 (ULP'S, C 18 : 11 変更)

Oan 'e kant fan 'e feart stiet in ielreager. 「水路の端にアオサギがいる」 (ULP'S, B 7 : 7)

Sille wy dan no mar *oan* tafel gean? 「さて、それでは食卓につきましようか」 (ULP'S, A 3 : 10)

Dat is te sjen *oan* de wurden. 「それは言葉でわかる」 (ULP'S, B 11 : 24)

Ik haw it perfoarst net *oan* tiid. 「私はきつと時間がないと思う」 (ULP'S, C 19 : 32)

② 間接目的語をとる動詞について前置詞句を用いた表現

De reizger joech it kaartsje *oan* de kondukteur. 「乗客は車掌に乗車券を渡した」 (ULP'S, C 18 : 23)

Lit dyn hús wurk sjen *oan* 'e learaar. 「宿題を先生に見せなさい」

☞ 名詞句を用いた表現も可能である。

De reizger joech de kondukteur it kaartsje. 「同上」 (§ 31 (6))

Lit de learaar dyn hús wurk sjen. 「同上」

③ 進行形 'oan 't+動名詞+wêze' 「…しているところだ」

Hy is in brief nei Fryslân *oan 't skriuwen*. 「彼はフリースラントへ手紙を書いているところだ」

ただし、動詞定形だけでも進行形の意味は表現できる。

☞ 次の表現に注意。

Hy is in brief *oan 't skriuwen* nei Fryslân. 「同上」

*Hy is *oan 't skriuwen* fan in brief nei Fryslân. 「同上」

オランダ語も同様。

オ. Hij is een brief naar Friesland *aan het schrijven*. 「同上」

Hij is een brief *aan het schrijven* naar Friesland. 「同上」

*Hij is *aan het schrijven* van een brief naar Friesland. 「同上」

- (t) oant [oənt] 「…のところ・ときまで」

Fan De Lemmer *oant* en mei de Burgumermar leit in lege krite mei marren, puollen en sompen. 「デ・レメル (オ. Lemmer レメル) からブルフム湖 (オ. Bergumer Meer ベルフム湖) を含むところまでは、湖や池や沼のある低地が広がっている」 (ULI'S, C 9:12 変更)

Kofje en tee wienen *oant* likernôch 1850 rikeljusdrinken. 「コーヒーとお茶は 1850 年ころまで金持ちの飲み物だった」 (ULI'S, B 3:12 変更)

De lytsfaam arbeide fan moarns ier *oant* jûns let. 「女中は朝早くから夜遅くまで働いた」 (ULI'S, B 12:10 変更)

fan de widze *oant* it grêf 「ゆりかごから墓場まで」

Oant sjen! 「さようなら (=また会うまで)」

- (u) oer [uər] 「…の上を (広がり・移動を伴う)、…を越えて、…を経由して、…について」

☞ (d) boppe と比較。エ./オ. over、ド. über 参照。

De beammen hingje *oer* de sleatten. 「木々は水路の上に掛かるようにして立っている」 (ULI'S, B 11:23)

De sjirurch bûcht him *oer* it lichem fan de kocheljende pasjint. 「外科医はあえいでいる患者の体の上に身をかかめる」 (ULI'S, C 10:11)

Ik bin *oer* in stien fallen. 「私は石につまづいて転んだ」 (ULI'S, B 10:17)

Minder strange winters meitsje sokke tochten *oer* iis hjoeddedei hast ûnmooglik. 「冬があまり厳しくないために、氷の上を滑るこうしたレースは今日ではほとんど無理である」 (ULI'S, B 5:7 変更)

☞ (w) op の下記の用例を参照。

De bern ha *op* it iis riden. 「子供たちは氷の上でスケートをした」(場所)
Do reizgest better *oer* Ljouwert. 「君はリャウエト (オ. Leeuwarden レーワルデン) を経由して行ったほうがいい」

Dit wurk kin *oer* in jier duorje. 「この仕事は1年以上かかるかもしれない」

Hy klaget *oer* de drokte. 「彼は忙しいと苦情を言う」 (ULI'S, C 14 : 15)

- (v) om [om] 「…のまわりに、…時に (時刻)、…ころに (時期)、…ごとに、…を求めて、…にかんして」

De moanne draait *om* de ierde. 「月は地球のまわりを回っている」
(Bangma 1992 : 76)

Sy hat in ring *om* 'e finger. 「彼女は指に指輪をしている」 (ULI'S, A 20 : 9 変更)

Hy kaam *om* tsien oere. 「彼は10時 (きっかり) に来た」

☞ 時刻の表現については § 48 (a) 参照。

Yn Fryslân is it *om* distiid fierste kâld. 「フリースラントではこの時期ひじょうに寒い」 (ULI'S, B 2 : 14 変更)

Om 'e {*tw*a/*oar*de/*oare*} wike gean ik nei Grins. 「2週間ごとに私はフローニンゲン (オ. Groningen) に行く」 (§ 51 (3)(c)) (Zantema 1984 : 676, 702 変更)

It bern socht *om* syn mem. 「子供は母親を (=母親を求めて) 探した」
(ULI'S, A 20 : 9 変更)

Jan rôp *om* syn mem. 「ヨンは母親を (=母親を求めて) 呼んだ」
(ULI'S, C 1 : 11 変更)

Guon minsken nimme in kat *om* 'e gesellichheid. 「楽しみで猫を飼う人たちがいる」 (ULI'S, C 7 : 29 変更)

De minsken moasten *om* it toanielstik laitsje. 「人々はその劇のことを笑わざるを得なかった」 (ULI'S, A 17 : 16)

Om my geane wy nei Frankryk. 「私はといえば、みんなでフランスに行きたいと思います」 (Bangma 1993 : 173)

- (w) op [op] 「…の上 (表面・側面) に、…のときに、…をめざして」

Jo moatte *op* bêd bliuwe. 「あなたは寝ていなければなりません」 (場所)

Us bern geane jûns om acht oere *op* bêd. 「うちの子供たちは夜8時に寝ます」(方向) (ULI'S, B 15 : 12)

Ik stapte *op* de trein. 「私は電車に乗った」(ULI'S, C 18 : 12 変更)
De seefûgel hat syn nêst *op* it strân. 「カモメは海岸に巣がある」(ULI'S, B 9 : 11)

Jimme rieden *op* 'e fyts nei hûs. 「君たちは自転車で家に帰った」
De bern ha *op* it iis riden. 「子供たちは氷の上でスケートをした」(ULI'S, C 9 : 15)

☞ (u) oer の用例を参照。

sokke tochten oer iis 「氷の上を滑るこうしたレース」(移動)。

Hy wennet yn Balk, en sy wennet *op* 'e Jouwer. 「彼はボルク (オ. Balk バルク) に住んでおり、彼女はデ・ヤウエル (オ. Joure ヤウレ) に住んでいる」

☞ *op* と *yn* の使い分けについては § 61 (1) 参照。

Op snein bliuw ik thús. 「私は日曜は家にいる」

Ferheard seagen wy baas smid *op* in moarn yn in wite jas omspringen. 「私たちは鍛冶屋の主人がある朝、白い上着を着て立ち回っているのを見て驚いた」(ULI'S, B 12 : 10)

Koffers en tassen nimme wy *op* reis mei. 「トランクとカバンを私たちは旅行にもっていきます」(ULI'S, C 18 : 9)

Fan generaasje *op* generaasje wennen de minsken yn harren doarp. 「何世代にも (= 世代から世代に) わたって人々は自分の村に住みつづけた」

de boat fan Harns *op* Skylge 「ハーンス (オ. Harlingen ハルリンゲン) からスキルヘ島 (オ. Terschelling テルスヘリング島) へ向かう船」(Zantema 1984 : 715)

in bustsjinst *op* Snits 「スニツ (オ. Sneek スネーク) 行きのバス路線」(ib. 715)

(x) *sûnder* [sûndər], *sonder* [sôndər] 「…なしで, …を欠いて」

De moanne skynde út in himel *sûnder* wolken. 「月が雲のない空から輝いていた」

Wy kinne *sûnder* dit gemak net libje. 「私たちはこの便利さがなければ生きていけない」 (ULI'S, A 12 : 7 変更)

De situaasje is *sûnder* mis gâns feroare. 「状況は疑いもなくまったく変わった」 (*sûnder* mis 「疑いもなく」) (ULI'S, C 11 : 2 変更)

Wy kinne dat *sûnder* mear fêststelle. 「私たちはそのことを容易に確認できる」 (*sûnder* mear 「難なく、ただちに」) (ULI'S, C 11 : 2 変更)

- (y) *sûnt* [sunt] 「…以来、…からずっと」

Sûnt 1963 wie der gjin Alvestêdetocht mear hâlden. 「1963 年以降、オルヴェステートホト (フリースラント州の 12 の都市をめぐるスケート競技) は開かれていなかった」 (ULI'S, B 5 : 7 変更)

Gysbert Japicx wie winliken de earste dy't *sûnt* lange tiid it Frysk as skriuwtaal wer brûkte. 「ギスベト・ヤーピクス (1603-1666) は長い時代の後にフリジア語を再び文章語として用いたまさに最初の人だった」 (Stienstra 1982 : 39 変更)

It boerelibben hat foaral *sûnt* de lêste oarloch in grutte ûntjouwing trochmakke. 「農村の生活はとくに先の大戦以来、大きな展開をとげた」 (ULI'S, B 9 : 13)

☞ 定動詞が現在完了形で過去の出来事を表わしていることに注意。

Sûnt de Twadde Wrâldoarloch libje de minsken frijer. 「第 2 次大戦以降、人々はより自由に生きるようになった」

☞ 定動詞が現在形で現在に至る出来事を表わしていることに注意。

- (z) *ta* [ta] 「…の方向・状態・関係へ、…に加えて、…について」

Dan komt men wol *ta* dizze konklúzje. 「それならなるほどこの結論に至るだろう」 (ULI'S, C 20 : 5 変更)

Hy waard keazen *ta* foarsitter. 「彼は会長に選出された」 (Boersma/Van der Woude 1980² : 82)

De ûntfolking fan it plattelân is *ta* stilstân kommen. 「田舎の過疎化

は止まった」(ULI'S, B 8 : 7 変更)

De redakteuren kedize oer ynkoartsjen *ta* minder alineas. 「編集者たちは改行を少なくするように指示する」(ULI'S, A 15 : 8 変更)

Eeltsje Halbertsma learde *ta* dokter, earst yn Leien en letter yn Heidelberg. 「エールチェ・ホルベツマ (ホルベツマ 3 兄弟の次男, 1797-1858) はまずレイデン (オ. Leiden)、次にハイデルベルクで医学を修めた (=医者になる勉強をした)」(Stienstra 1982 : 56 変更)

Wy hawwe allegearre in goed hûs *ta* ús foldwaan. 「私たちはみな満足のいく家を手に入れている」(ULI'S, C 20 : 4 変更)

ta it Frysk 「フリジア語について」

ta de Fryske syntaksis 「フリジア語の統語論について」

- (α) *te* [tə] 「…のほうへ (無冠詞の名詞や形容詞・副詞とともに慣用句で)、…のところで、…のために、…の様子で、…のときに」(文語的)

De auto brocht har *te* plak. 「車は彼らを目的地に運んだ」(ULI'S, B 8 : 7 変更)

Wat in folk komt der oan *te* pas! 「何という人々が集まってくるのか」(ULI'S, A 13 : 8)

Simke Kloosterman is yn 1876 *te* Twizel berne en hat dêr ek har jonge jierren trochbrocht. 「シムケ・クローステルマン (西フリジア文学の代表的な女流作家 1876-1938) は 1876 年にトヴィーゼル (オ. Twijzel トヴェイゼル) に生まれ、そこでまた若い時代を過ごした」(Stienstra 1982 : 96)

☞ 口語では *te* のかわりに *yn* または *op* を使う (§ 61 (1))。

- (β) *troch* [trox] 「…を通して、…のあいだずっと、…を使って、…の原因で、…によって (受動文・使役文などの動作主・手段)」

Wy fytse *troch* de buorren. 「私たちは自転車で村の中心を通り抜ける」(Bangma 1993² : 76)

De dief is *troch* it finster yn 'e hûs kommen. 「泥棒は窓を通して家の中に入った」(ULI'S, A 18 : 12 変更)

Hy kaam *troch* it eksamen. 「彼は試験に通った」 (Zantema 1984 : 1076 変更)

Hâns sakke *troch* syn fyts. 「ホーンズは自転車から落ちた」 (ULFS, A 18 : 15)

Hy kaam mei lijen *troch* de winter. 「彼は苦勞して冬を越した」 (Zantema 1984 : 1076 変更)

It famke is *troch* in mich stutsen. 「女の子は蚊に刺された」 (ULFS, B 6 : 20)

☞ 受動文・使役文の動作主には文語では *fan* を用いる。

Lit it ferhaaltsje lêze *troch* ien dy't it Frysk yn 'e macht hat. 「だれかフリジア語のできる人にその話を読んでもらいなさい (= 読ませなさい)」 (ULFS, B 19 : 18 変更)

It doarpslibben kin *troch* frjemde ynkommelingen in fernijing ûndergean. 「村の暮らしはよそから来る人々によって変わる可能性がある」 (受動の意味の機能動詞構文 (ド. Funktionsverbgefüge)) (ULFS, C 11 : 12)

It hea bedoar ferline wike *troch* it reinwetter. 「干し草は先週、雨でだめになった」 (bedjerre 「だめになる」は能格動詞 (エ. ergative verb)) (ULFS, C 20 : 2)

- (γ) *tsjin* [tʃɪn] 「…に向かって、…にたいして、…に逆らって、…ころ(時間)、…と引きかえに」

De auto botste *tsjin* in beam. 「車は木に衝突した」 (ULFS, A 18 : 16 変更)

De busûndernimmingsen moatte konkurrearje *tsjin* de eigen auto. 「バス会社は自家用車と競争しなければならない」 (ULFS, C 20 : 9 変更)

Ik haw honger, seit de jonge *tsjin* har. 「おなかですいたと男の子は彼女に言う」 (ULFS, A 7 : 15 変更)

It ûntwerp fan de Fryske flagge is *tsjin* 1900 makke. 「フリースラン

トの旗の原案は1900年ころに作られた」(ULI'S, C 20:8 変更)

☞ 次の *tsjin* は「反対して」という意味の副詞である。

Op gearkomsten treffe jo minsken dy't der op *tsjin* binne dat jo Frysk prate. 「会議ではフリジア語を話すことに反対の人々に出会う」(ULI'S, B 8:15)

(d) *tusken* [tōskən] 「…の間に」

Yn de midsieuwen leine de sân Fryske seelannen *tusken* it Swin en de Weser. 「中世にはフリースラント沿岸7州はズヴィン川 (オ. het Zwin) とヴェーザー川の間にまたがっていた」(ULI'S, C 20:8 変更)

It ferskil *tusken* doarpen en stêden is lytser wurden. 「村と都市の間の差は小さくなった」(ULI'S, C 11:2 変更)

De flagge stiet op it tuorke *tusken* de keale beammen. 「旗は葉を落とした木々の間の塔の上に立っている」(ULI'S, B 5:10)

(e) *ûnder* [ûndər], *onder* [ôndər] 「…の下に (場所・数量・年齢・地位・支配・所属・所有・被覆など)、…しながら」

It skip wie sonken en lei *ûnder* wetter. 「船は沈没して水底に沈んでいた」(ULI'S, A 18:12 変更)

De eigners fan de hûnen hearre harren bisten *ûnder* tafersjoch te hâlden. 「犬の所有者は自分たちの動物 (= 犬) を管理しなければならない」(ULI'S, C 11:15)

Sy lije *ûnder* it regear. 「彼らは政権のもとで苦しんでいる」(ULI'S, C 16:30 変更)

It gefolch wie in protte sykte en stjerfte, foaral *ûnder* de bern. 「それはとりわけ子供たちの間で多くの病気と死をもたらす結果になった」(ULI'S, C 20:4 変更)

(f) *út* [yt] 「…の外に、…から、…の理由・きっかけで」

It jonkje blet *út* 'e noas. 「男の子は鼻から血が出ている」(ULI'S, B 12:8 変更)

De âldste fan de bruorren Halbertsma *út* Grou wie Joast. 「グラウ

(オ. Grouw フラウ) 出身のホルベツマ兄弟のいちばん年上はヨアストだった」(Stienstra 1982 : 47)

De natuer komt *út* 'e wintersliep. 「自然は冬の眠りから目を覚ます」
(ULI'S, A 9 : 9)

De kleur fan myn freon syn strik is *út* 'e moade. 「私の友人のネクタイの色は流行遅れだ」(ULI'S, C 4 : 5 変更)

Piter prate har dat *út* 'e holle. 「ピテルは彼女にそれを断念させた」
(ULI'S, C 11 : 8 変更)

Ut namme fan de feriening skreau er dat. 「会を代表して (=会の名前で) 彼はそれを書いた」(ULI'S, C 20 : 14)

(7) *útsein* [ýtsain, ..sɛin] 「…を除いて」

Wy hawwe it bannich *útsein* sneons. 「私たちは土曜日を除いて多忙です」(Zantema 1984 : 1142 変更)

§ 61 前置詞のその他の用法、前置詞の残留

(1) 地名とともに用いる前置詞

場所を表わす場合、地名とともに用いる前置詞には *op*, *yn*, *te* の 3 種類があり、次のように使いわけられる (Oosterhout 1960 : 52 ff.)。

① *yn* : 大部分の無冠詞の地名

yn Grins 「フローニンゲン (オ. Groningen) で」

yn Ljouwert 「リャウエト (オ. Leeuwarden レーワルデン) で」

yn Drachten 「ドラハテン (オ. Drachten ドラハテン) で」

② *op* : 少数の無冠詞の地名 (小さな村)、定冠詞のついた地名、島の名前

op Aldebiltsyl 「オーデビルトシル (オ. Oude Bildtziyl アウデ・ビルトセイル) で」

op Snakkerbuorren 「スナケルブオレン (オ. Snakkerburen スナケルビューレン) で」

op 'e Lemmer 「デ・レメル (De Lemmer ; オ. Lemmer レメル) で」

op 'e Jouwer 「デ・ヤウエル (De Jouwer ; オ. Joure ヤウレ) で」

op 't Hearrenfean 「エト・イエレンフェアン (It Hearrenfean ; オ. Heerenveen ヘーレンヴェーン) で」

op 't Bilt 「エド・ビルト (It Bilt ; オ. Het Bildt エド・ビルト) で」

op 't Amelân 「エト・アーメローン島 (It Amelân ; オ. Ameland アーメラント島) で」

op Skiermûntseach 「スキエルムンツェアハ島 (オ. Schiermonnikoog スヒールモニコーホ島) で」

op Skylge 「スキルヘ島 (オ. Terschelling テルスヘリング島) で」

③ te : 文語的な表現

Joast Hiddes Halbertsma waard yn 1789 *te* Grou berne. 「ヨアスト・ヒデス・ホルベツマは1789年にグラウ (オ. Grouw フ라우) で生まれた」

Joast learde ta dûmny en waard yn 1814 beroppen *te* Boalsert. 「ヨアストは司祭になる勉強を修め、1814年にボルゼト (オ. Bolsward ボルズヴァルト) に招聘された」 (Stienstra 1982 : 47 変更)

Der binne guon Aldfryske hânskriften yn 'e universiteitsbibliteek *te* Grins. 「フローニンゲン (オ. Groningen) の大学図書館には古フリジア語の写本がいくつかある」 (Boersma/Van der Woude 1981² : 11 変更)

(2) 前置詞句を支配する前置詞

(a) 用 例

前置詞には名詞句を伴うもののほかに前置詞句を伴うものがある。ここではいくつか例を示すにとどめる。

It Aldfrysk [*fan* [*nei* 1200]] is ús út ûnderskate hânskriften bekend. 「1200年以降の古フリジア語はさまざまな写本から私たちに知られている」 (Boersma/Van der Woude 1981 : 11)

Soms [*oant* [*yn* de lytse ûnderdieltsjes]] wurdt foarskreaun, wêr't

in wente oan foldwaan moat. 「ときには小さな下位部分に至るまで、住居が何を満たす必要があるかが規定されている」 (ULI'S, C 20 : 4)

It foarheaksel 'fer-' ferliest de útspraak fan de 'r' foar alle bylûden [*ûlsein* [*foar* de 'h']]. 「接頭辞 fer- は h を除いてすべての子音の前で r の発音を失う」 (Bangma 1993² : 116)

(b) 前置詞の意味を細かく指定する副詞

次例の *achter* 「裏に」、*bûten* 「表に、外に」、*midden* 「真ん中に」、*lyk* 「まさに」、*krekt* 「まさに」は直後に後続する前置詞句を修飾する副詞であり、前置詞の意味を細かく指定している。

Achter [*op* alle foto's] hat beppe de bertedata fan har oerbepesizzers skreaun. 「すべての写真の裏に祖母はひ孫の誕生日の日付を書いた」 (ULI'S, B 11 : 6 変更)

Bûten [*op* it brief] stiet it folgjende. 「封筒の (= 手紙の) 表には次のことが書いてある」 (Zantema 1984 : 150)

☞ 上記の 2 例では **op achter* ... 「…の裏に」、**op bûten* ... 「…の表に」とはならないことに注意。

De beide kearen dat in rivier myn paad krúste, hâlde ik dan ek *midden* [*op* 'e brêge]. 「川が道と交差したその 2 回とも、私は橋の真上で立ち止まった」 (ULI'S, B 20 : 15 変更)

It wetter stie *lyk* [*mei* de dyk]. 「水面が道のすれすれのところまで上がってきていた」 (ib. 573 変更)

Krekt [*boppe* it wetter] fljocht it swerm miggen. 「水面すれすれのところを虫の一群が飛んでいる」 (ULI'S, B 7 : 7 変更)

☞ 上記の *achter*, *bûten*, *midden*, *lyk*, *krekt* は統語的に前置詞句の「指定部」(エ. specifier) の位置にあると言える。

(3) 不定詞句を伴う前置詞

付加成分としてはたらく副詞句では、前置詞が不定詞句 (... te + 動名詞) を伴うことがある (§ 55 (2)(a))。

Do antwurdest [*sûnder* [*nei te tinken*]]. 「君はよく考えずに答えた (答える)」 (ULI'S, C 8 : 22)

Ferbûch de folgjende tiidwurden, [*troch* [se goed yn 'e sin *te setten*]]. 「次の動詞を正しく文の中に置くことによって変化させない」(Bangma 1993²: 59 変更)

It ûndersyk waard dien [*troch* [in enkête *te stjoeren* nei alle (leden fan) krite en studinteferienings]]. 「その調査はすべての自治体と学生組合(の会員)にアンケートを送ることによって行なわれた」(Ut de Smidte 1997: 31, 1)

[*Nei* [yn Frjentsjer by de útjouwer Telenga yn 't wurk *west te hawwen*]], ferfart Waling Dykstra yn 1861 nei Holwert. 「フリエンチエル(オ・Franeke フラーネケル)で出版社テーレンガに勤めた後、ヴァーリング・ディクストラ(著名なフリジア語辞書の著者、作家 1821-1914)は 1861 年にホルヴェト(オ・Holwerd ホルヴェルト)に移り住む」(Stienstra 1982: 71 変更)

☞ ドイツ語では 'ohn... zu+不定詞' は可能だが、'*{durch/nach}... zu+不定詞' は不可。オランダ語ではすべて可能: '{zonder/door/na}... te+不定詞'。

(4) 「代名詞の der」を伴うことができない前置詞

付加成分としてはたらく副詞句では、「代名詞の der」 (§ 55) を伴うことができない前置詞が少数ある。これは dat ならば伴うことができるものと、どちらも伴うことができないものに分かれる。

(a) dat ならば伴うことができる前置詞

論理関係を意味する前置詞では名詞が両性でも dat を用いるものがある。

① behalve(n) 「…を除いて」

Sy hat in soad fan har mem *behalve har mûle*. 「彼女は口元を除いて母親から多くを受け継いでいる」(de mûle 「口」)(Visser 1985: 63 変更)

→ Sy hat in soad fan har mem {*behalve dat*/**behalve dy*/**behalve him*/**derbehalve*/**dêrbehalve*}. 「彼女はそれを除いて母親から多くを受け継いでいる」

☞ オランダ語も同様。

Ze heeft veel weg van haar moeder *behalve haar mond*. 「同上」
 → Ze heeft veel weg van haar moeder {*behalve dat/*bahalve die/*behalve hem/*erbehalve/*daarbehalve*}. 「同上」

② útsein 「…を除いて」

Utsein syn noas hat er in soad fan syn heit. 「鼻を除いて彼は父親から多くを受け継いでいる」 (de noas 「鼻」) (Visser 1985 : 63 変更)
 → {*Utsein dat/*Utsein dy/*Utsein him/*Derútsein/*Dêrútsein*} hat er in soad fan syn heit. 「それを除いて彼は父親から多くを受け継いでいる」

③ fanwege(n) 「…のために」

Fanwege syn sykte koe er net komme. 「病気のために彼は来られなかった」 (de sykte 「病気」)
 → {*Fanwege dat/*Fanwege dy/*Fanwege him/*Derfanwege/*Dêrfanwege*} koe er net komme. 「そのために彼は来られなかった」

☞ オランダ語も同様。

Vanwege zijn ziekte kon hij niet komen. 「同上」
 → {*Vanwege dat/*Vanwege die/*Vanwege hem/*Ervanwege/*Daarvanwege*} kon hij niet komen. 「同上」

☞ *sûnder* (sonder) 「…なしで」、*neffens* 「…に従って」は「代名詞の *der*」を伴うことができる。

Sette wy ‘bak’ en ‘pak’ *njonkeninoar*, dan is it plak fan artikulaasje gelyk, mar it ferskil is no, dat de ‘b’ mei trilling fan de stimbanen útsprutsen wurdt, de ‘p’ *der sûnder*; *dêrneffens* kinne wy ûnderskiede yn ‘stimhawwend’ en ‘stimleas’. 「bak と pak を並べてみると、調音位置は同じだが、b が声帯の振動を伴い、p がそれを伴わないで発音されるという違いがある。このことから「有声」と「無声」が区別できる」 (Boersma/Van der Woude 1982 : 58)

オランダ語の *zonder* 「…なしで」は **erzonder* とは言えない (Riemsdijk 1978 : 78)。

(b) *dat* 以外の代名詞でも伴うことができない前置詞

① *sûnt* 「…以来、…からずっと」

Sûnt tritich jier wenje ik yn Snits. 「30 年以来、私はスニツ (オ.

Sneek スネーク) に住んでいる」

→{*Sânt doe/Sânt dan/Sânt dy tiid/*Sânt dat/*Sânt dy/*Sânt harren/*Dersânt/*Dêrsânt*} wenje ik yn Snits. 「私はそのとき以来、スニツに住んでいる」

☞ オランダ語でも同様。

Sinds dertig jaar woon ik in Sneek. 「同上」

→{*Sinds toen/Sinds dan/Sindsdien/Sinds die tijd/*Sinds dat/*Sinds die/*Sinds hen/*Ersinds/*Daarsinds*} woon ik in Sneek. 「同上」

② oant 「…のところ・ときまで」

Hy sliept *oant acht oere*. 「彼は8時まで寝ている」

→ Hy sliept {*oant dan/*oant dat/*oant dy/*oant him/*deroant/*dêroant*}. 「彼はそれまで寝ている」

☞ オランダ語も同様。

Hij slaapt *tot acht uur*. 「同上」

→ Hij slaapt {*tot dan/*tot dat/*tot die/*tot hem/*ertoe/*daartoe*}. 「同上」

(c) te 「…のほうへ、…のところで、など」 (§ 60(2)(a))

te は特定の文語的表現にしか用いず、代名詞や副詞では置きかえられない。

Hy gong dan *te wurk*. 「彼はそれから仕事に行った」

→ Hy gong dan {**te dat/*derte/*dêrte*}.

(5) 「代名詞の der」による前置詞の残留

(a) まとめ

「代名詞の der」(あるいは一般に「r-代名詞」)は語順から見ると「後置詞」としてはたらいっている前置詞から分離する場合、前置詞は文末、あるいは後域成分の直前に隣接して残り(「隣接条件」)、これを「前置詞の残留」(エ, preposition stranding)という。ただし、これは動詞(または形容詞)などの目的語や方向・道具など動詞との結びつきが強い補足成分(it komplement)であり、「再分析」によって前置詞と動詞が新たな動詞を形成する

場合に起こる。一方、目的・結果・理由・比較などの論理関係や場所・時間にかかわる付帯状況のように、結びつきが弱い付加成分 (de adjunct) であり、上記の「再分析」を起こさない場合には分離せず、‘{dêr/der}-前置詞’として現われる。とくに論理関係を表わす場合には、dêrby「そのさいに」、dêrtroch「それを通じて」、dêrom「そのために」、wêrom「なぜ」のように1語の副詞として語彙的に固定しているものが多い ((b)(c))。名詞句内の要素のように見えながら、分離する場合もある ((d))。

(b) 用 例

① 分離する場合：補足成分

Se binne {grutsk op har doarþ/op har doarþ grutsk}. 「彼らは自分たちの村を誇りにしている」 (op ... grutsk wêze 「…を誇りにしている」)

→ Se binne {der/dêr} grutsk op. 「彼らはそれを誇りにしている」

Se binne {*derop/(稀) dêrop} grutsk. 「同上」

Se binne grutsk {*derop/(稀) dêrop}. 「同上」

{*Der/Dêr} binne se grutsk op. 「それを彼らは誇りにしている」

{*Derop/(稀) Dêrop} binne se grutsk. 「同上」

② 分離しない場合：付加成分

Hy gong {nei it iten op bêd/op bêd nei it iten}. 「彼は食事の後で床に就いた」

→ Hy gong {*der/*dêr} op bêd nei. 「彼はその後で床に就いた」

Hy gong {dernei/dêrnei} op bêd. 「同上」

Hy gong op bêd {(稀) dernei [... nái, ... néi]/(稀) dêrnei}. 「同上」

{*Der/*Dêr} gong er op bêd nei. 「その後で彼は床に就いた」

{(稀) Dernei [... nái ... néi]/Dêrnei} gong er op bêd. 「同上」

このように、②の dernei は①の derop と異なり、... nei [... nái, ... néi] の部分にアクセントを置けば、前域 (主文の定動詞の直前) にも現われることがある。これは dernei「その後で」がたとえば derfoar「その

前に」との対比で強調されてアクセントをもつことがある場合である。一方、derop grutsk「それを誇りにしている」では op が grutsk の要求する特有の前置詞であり、他に選択の余地がないために対比のアクセントをもてないのでそれが許されない。

(c) 分離しない場合のその他の用例

① 分離できない用例

Oan 'e oare kant fan ús strjitte steane beammen. *Dêrefter* is in smelle berm en in feart dy't nochal wiid is.「私たちのところの通りのもう片側には木々が立っています。その後ろには細長い茂みとかなり広い掘があります」(ULP'S, A 8:7)

It is *dêrmei* dúdlik wêr't de oast sit.「どこに問題点があるかはそれによって明らかである」(Hoekema 1983: 85)

Hy helle in flesse bearenboarch en in romer, *dêrmei* sette er in plaat fan Mozart op.「彼はブランデーとブランデーグラスをもってきて、その後でモーツァルトのレコードをかけた」(ULP'S A 16:8 変更)

Dêrneist meie wy oannimme dat de jongeren mear ûnder ynfloed fan it Hollânsk steane as de âlderen.「それとあわせて、高年層に比べて若年層がオランダ語の影響をより多く被っていると考えていい」(Breuker et al. 1992²: 17 変更)

Besite is foar in pasjint tige wichtich. *Dêrtroch* bliuwt er op 'e hichte mei wat der yn 'e wrâld bûten it sikehûs bart.「見舞いは病人にとってとても大切である。それを通じて病人は病院の外の世界で起こっているできごとを知る」(ULP'S, B 11: 12)

② 分離できるが、分離していない用例

Ik soe gjin fêste relaasje mear ha wolle leau 'k. *Dêrfoar* ha 'k al te lang frijgesel west.「ぼくはもう身を落ち着けたくはないな。それにはもう独身生活が長すぎた」(*Dêr* ... foar も可) (Bangma 1993²: 10)

Meitsje mei de wurden dy't jo leard hawwe in advertinsje. Ferkeapje *dêryn* produkten dy't jo as handeler ferkeapje moatte.「習っ

た語を用いて広告文を作りなさい。その中で販売業者として売らなければならない品を売ってみなさい」(*dêr ... yn* も可) (ULI'S, A 14:8)

(d) 名詞句内の要素のように見える *der*

名詞句の内部にある *der* はふつう分離しない。

[In stikje fleis of spek *derby*] wie in útsûndering. 「そのさい肉や脂身がひと切れつくのは例外だった」 (ULI'S, B 3:11)

[In gefolch *dêrfan* is wer dat de biste- en fûgelstân ek achterút giet. 「その結果はまたしても動物や植物の生育もまた衰えるということである」 (ULI'S, B 9:14)

しかし、次の用例はそのような *der* が分離できることを示している。

Dat is [in part *derfan*]. — Dat is *der* in part *fan*. 「それはその一部分だ」 (Hoekema 1983:90)

つまり、in part *derfan* 「その一部分」は全体で意味的なまとまりを形成しているが、統語的には in part と *derfan* という二つの文成分に分かれ得ると言える (De Haan 1978/79)。

その他の用例。

In hûshâldbeurs is *dêr in foarbyld fan*. 「家庭用品の展示はそのひとつの例です」 (ULI'S, A 12:7)

Dêr haw ik no gjin eksimplaren mear *fan yn 'e hûs*. 「その在庫は私は家にはもうひとつもありません」 (Hoekema 1983:90)

次の用例は名詞句についての前置詞の残留 ((6)) の例である。

Ferkearsregels ha se *gjûn weet fan*. 「彼らは交通規則について何の知識ももっていない」 (ULI'S, B 13:7)

(6) 名詞句による前置詞の残留

(a) 前置詞句の残留の種類

(4)で扱った前置詞を除いて、‘前置詞＋物事を示す代名詞’が‘*der* (...) 前置詞’となり、動詞(または形容詞)の補足成分である場合に前置詞はふつう *der* から離れて文の後方に残留することは(5)で述べた(「代名詞の *der*」に

よる前置詞の残留)。

De minsken harkje *nei de regionale berjochten* better. 「人々はローカルな報道のほうをよく聞く」(*nei... harkje* 「…を聞く」)

→ De minsken harkje {*der/dêr*} better *nei*. 「人々はそのほうをよく聞く」

{**Der/Dêr*} harkje de minsken better *nei*. 「同上」

De minsken harkje {**dernei/(稀) dêrnei*} better. 「同上」

{**Dernei/(稀) Dêrnei*} harkje de minsken better. 「同上」

一方、西フリジア語には「代名詞の *der*」を介在させなくても、前置詞を文の後方に残したまま名詞句を「話題(トピック)」として前域に置く構文がある(話題化 オ. *de topicalizatie*)。

① 話題化

De regionale berjochten harkje de minsken better *nei*. 「人々はローカルな報道のほうをよく聞く」(Bangma 1993²: 123 変更)

☞ 前置詞を残留させずに前置詞句全体を前域に置くこともできる。

Nei de regionale berjochten harkje de minsken better. 「同上」

② 受動文での話題化

受動文でも名詞句による前置詞の残留が見られる。

De regionale berjochten {*wurdt/*wurde*} better *nei* harke. 「ローカルな報道のほうがよく聞かれる」

☞ 前置詞を残留させずに前置詞句全体を前域に置くこともできる。この文の *der* は「代名詞の *der*」ではなく、「虚辞の *der*」である。

Nei de regionale berjochten wurdt {*Ø/der*} better harke. 「同上」

← *Der wurdt nei de regionale berjochten* better harke. 「同上」

☞ オランダ語の標準語では名詞句による前置詞の残留は不可能であり、「代名詞の *er*」を介在させなければならない。

De mensen luisteren *naar de regionale berichten* beter. 「同上」

話題化:

*De regionale berichten*₁ {**Ø/daar*₁} luisteren de mensen beter *naar*. 「同上」

受動文:

*De regionale berichten*₁ { *Ø/*daar*₁ } wordt beter *naar* geluisterd.

「同上」

②の受動文の場合、*de regionale berjochten* 「ローカルな報道」は主語ではなく、たんなる話題にとどまっており、定動詞には3人称単数形 *wurdt* が用いられている。この文は自動詞の受動態であり、主語を欠く「非人称受動」(*it ûnpersoanlik passyf*) である。このように、西フリジア語では名詞句による前置詞の残留でも名詞句は前置詞に支配されたままである。

次の用例も同様である。

Fiif minsken wurdt *op* rekkene. (=Der wurdt *op fiif minsken* rekkene.) 「5人の人が見込まれている」(*wurdt*: 3人称単数形) (ib. 77 変更)

← *Wy rekkenje op fiif minsken*. 「私たちは5人の人を見込んでいる」

⇒ *Fiif minsken* wurde *ferwachte*. 「5人の人が期待されている」
(wurde: 3人称複数形) (Boersma/Van der Woude 1980²: 77 変更)

← *Wy ferwachtsje fiif minsken*. 「私たちは5人の人を期待している」

☞ 英語ではこの場合、名詞句は前置詞から統語的に独立している。たとえば、次の用例で能動文の *them* は受動文で *they* として主語になり、前置詞 *at* の支配を受けていない。つまり、*be laughed at* 「笑われる」という新たな述語が形成されていると言える（「再分析」エ. *reanalysis*）。

エ. *John laughed at them*. 「ジョンは彼らのことを笑った」

→ *They were laughed at by John*. 「彼はジョンに笑われた」

一方、名詞句が中域に置かれた場合には、「代名詞の *der*」による前置詞の残留と違って頻繁ではないものの、前置詞の残留はやはり可能である。

Better net te witten is yn 'e útropliteratuer *sa'n konstruksjes* oars kwealik omtinken *oan* jûn. 「筆者の知り得る限り、感嘆文を扱った文献ではこのほかにそのような構文にはほとんど注意が向けられていない」(Dyk 1988: 34)

Hoe kin it dat *dyn húswurk* no ynien gjin flaters mear *yn* sitte Tabe? 「おまえの宿題にいつへんにもう何も間違いがなくなったのは

どうしたわけなの、ターベ」(Bernekrante 17-5-1990:8)。

つまり、名詞句による前置詞の残留は話題化(前域への移動)のみならず、「かきまぜ」(エ. scrambling; 中域内での移動)の場合にも可能であると言える。「かきまぜ」による文の判定を否文とする意見もあるが、Hoekstra (1995:106 f.) は西フリジア語ではオランダ語よりずっと容認性が高いと述べており、上述のような実例が見られる。次の用例を参照。

フ. dat er {*dêr/dy gearkomste*} juster net oan tocht hie 「彼が{それ/その会議}が昨日あるとは思っていなかったこと」(ib. 106 f.)

オ. dat ie {*daar/*die vergadering*} gisteren niet aan gedacht had 「同上」(ib. 106)

前置詞の目的語が代名詞の場合には、名詞句による前置詞の残留と同様に、「代名詞の der」と並んで、それ以外の代名詞による前置詞の残留の可能性も考えられる。しかし、物事を示す代名詞など、前者が可能なときには一般に前者を用い、後者はあまり好まれない。

{[?]Dy/Dêr} ha ik in protte boeken oer lêzen. 「それについて私は多くの本を読んだ」(Hoekstra 1995:101 変更)

it art {[?]dat/dêr't} er om socht hat 「彼が探していた道具」(ib. 101 変更)

この事実は、上述した名詞句が中域に置かれた場合とあわせて、「代名詞の der」による前置詞の残留に比べて、名詞句による前置詞の残留およびその他の代名詞による前置詞の残留が有標であることを示している。

(b) 名詞句による前置詞の残留の性格

‘名詞句(...)前置詞’は一見、次例のように「代名詞の der」を介在させた分離であって、その上で dêr を省略した構文であるように見える。

De sinne dêr mei 'k wol oer. 「日差し、それは私は嫌いではない」
(Zantema 1984:679)

Nee, Timmen, dy tiid ha ik hân. De sport is foarby. Net mear swimme, net mear sile, dêr bin ik te âld foar. 「いや、ティメン、おれもそういう時代は終わったよ。スポーツはもうやめた。泳ぎも、ヨットも、それにはもう年だ」(ULP'S, A 19:7)

しかし、名詞句は人を示すこともある。「代名詞の der」は物事を示す名詞句のかわりに用い、人を示す名詞句のかわりに用いるのはふつう好ましくない。ところが、次のような用例はまったく問題がない。

Dy man moastst' mei oppasse: dat is in minnen. 「あの男の人には気をつけないとね。悪い人だから」 (Hoekema 1992: 4)

Him kin men alles fan ferwachtsje. 「あの人には何でも期待できる」 (ib. 19)

また、次の用例のように物事を示す代名詞の場合もある。

*Hokker {Ø/*dêr/*wêr} hast' it meast fan?* 「君はどれをいちばんたくさんもっているのか」 (ib. 14 変更)

この場合、疑問代名詞 *hokker* は *dêr* や *wêr* で受けることはできない。したがって、上記の構文は「代名詞の der」を介在させた分離ではない。

しかも、§ 59 で述べたように、この構文の基本語順は「前置詞＋名詞句＋動詞」であり、前置詞が動詞に隣接していないので、「代名詞の der」による前置詞の残留の場合とちがって、前置詞と動詞が「再分析」を起こしたために名詞句が分離しているとも言えない。この構文では名詞句が前置詞から分離したように見えるものの、じつはそうではなく、前置詞の目的語と解釈されているにすぎない。この点で西フリジア語は英語ともオランダ語の標準語とも異なり、そもそも *da(r)-* が分離できない標準ドイツ語とも異なる。

☞ Hoekstra (1995) は、上述の構文は名詞句が分離した位置にはじめからあり、前置詞の目的語である「空の再取代名詞」(エ. empty resumptive pronoun) を束縛 (エ. A'-bind) しているとみなしている。つまり、次のような構造になっていると考えている。

[*De regionale berjochten*]_i harkje de minsken better [*nei pro*_i]. 「同上」(*pro*_i は「空の再取代名詞」)

この「空の再取代名詞」は名詞句と同じ文にある場合には現われず、埋め込まれた文で解釈が困難になる場合にだけ現われる。

**Hokker famke_i hie er mei har_i praat?* 「彼はどの女の子と話をしていたのだろう」 (ib. 116 変更)

Hokker famke_i miendest dat er sei dat er mei har_i praat hie?

「どの女の子と(彼が)話をしたと彼が言っていると君は思ったのか」 (ib.

116 変更)

なお、§ 44 (5) で扱った次の構文も参照。オランダ語との相違に注意。

フ. *Wa tinke jo dat my sjoen hat?* 「あなたはだれが私に会ったと思いますか」

オ. ? *Wie denkt u dat mij heeft gezien?* 「同上」

ドイツ語の *jm. zuhören* 「... に耳を傾ける」、*jm. vorschweben* 「... の念頭に浮かぶ」などの表現は、Hoekstra (1995) の言う「空の再取代名詞」による上記の構文が歴史的に「再分析」によって新たな述語を形成した結果であると考えられる。

- ☞ オランダ語の標準語では規範として「代名詞の *er*」を伴って名詞句を受け、前置詞につなげる構文しか認められない (De Haan et al. 1979⁵: 131 ff., Hoekstra 1995: 105 ff.). しかし、口語では「代名詞の *er*」を伴わない名詞句による前置詞の残留も広く観察される。口語をもとにしたオランダ語統語論の詳細な記述である Paardeckooper (1958: 21 ff.) にはそのような用例が数多く収録されている。

Dat zeuren houd ik niet van. 「そういう愚痴は私は好きではない」
(ib. 21)

Kinderen zegt ze dat ze niet van houdt. 「子供というものは好きではないと彼女は言っている」 (ib. 23)

Die slechte weg kun je toch niet op gaan fietsen. 「その悪い道は君は自転車で行くのは無理だよ」 (ib. 31)

Die muur lag ik tegen te slapen. 「その壁に私はもたれて眠っていた」
(ib. 31)

西フリジア語とオランダ語の相違は両言語の標準語としての言語規範の強さにあるともいえる。

(c) 名詞句による前置詞の残留：その他の用例

Syn earlikens twivelje wy oan. 「彼の誠実さを私たちは疑っています」
(Boersma/Van der Woude 1980²: 57 変更)

Sok striemin waar hie gjin mins op rekkene. 「そんなひどい天気はだれも計算に入れていなかった」 (Hoekema 1992: 14 変更)

In koelkast en in waskmaschine kin men hast net mear sûnder. 「冷蔵庫と洗濯機はほとんどもうなしではいられない」 (ULP'S, A 20: 12)

Alde, brekfallige húskes wurde kreaze huzen fan makke. 「古くてい

たんだ小さな家にかわって立派な家が作られる」

Sok dreech iten kin ik net oer. 「そんなくどい食事には私は耐えられない」 (ULI'S, C 13 : 19)

It miljeu hat elkenien eins belang by. 「環境にはそもそもだれでも関心がある」 (ULI'S, B 11 : 17 変更)

De âlderdom binne gjin krûden foar woeksen. 「老いに効く薬草は(育って)いない(=人はみな年をとる。ことわざ)」 (Beintema 1990 : 10)

Dy sykte hat er wat fan oerholden. 「その病気の後遺症が少し彼には残ってしまった」 (Zantema 1984 : 682)

(d) ‘名詞句…不定詞句内の前置詞’

不定詞句に含まれる名詞句についても類似した現象が見られる。

Bedoarne kofjemolke is hielendal [om fan te grizen.] 「腐ったコーヒー用のミルクはほんとうに嫌気がする」(←*fan bedoarne kofjemolke grize*) (ULI'S, B 10 : 7 変更)

この文は「代名詞の *der*」を介在させると非文になるのであり、やはり「代名詞の *der*」を介在させたものではない。

**Bedoarne kofjemolke, dêr is hielendal om fan te grizen.*

ただし、(b)(c)の用例とちがって、*bedoarne kofjemolke* 「腐ったコーヒー用のミルク」は主語であり、定動詞に一致している。

*Bedoarne kofjemolke en bedoarn fleis {binne/*is}* *hielendal om fan te grizen.* 「腐ったコーヒー用のミルクと腐った肉は本当に嫌気がする」

上例の名詞句 *Bedoarne kofjemolke* 「腐ったコーヒー用のミルク」と *Bedoarne kofjemolke en bedoarn fleis* 「腐ったコーヒー用のミルクと腐った肉」は前置詞 *fan* から統語的に完全に独立しており、たんなる「話題」ではなく、主語である点で(b)(c)の用例とは異なる。

この名詞句は「島」(*it eilân*)である不定詞句から統語的に取り出されたものではなく、語形としては現われていない *fan* の目的語であるいわば「見えない(音形をもたない)代名詞」と同一であると解釈されている。上記の

Hoekstra (1995) の解釈を参照。

[Bedoarne kofjemolke]_i is hielendal [om [*fan* pro_i] te grizen.][「同上」]

その他の用例。

Hy socht om *in hûs* om *yn* te wenjen. 「彼は（ソノ中ニ）住むための家を探した」(Annie M. G. Schmidt: “Pluk fan de Petteflet” 7 変更)

(7) 場所の前置詞を欠く表現

西フリジア語では場所を示す前置詞句を要求する動詞を用いた表現について、前域では前置詞を伴わなくても名詞句だけで十分な場合がある。ただし、前域以外ではかならず前置詞を伴う。

- i) { $\emptyset$ /*By*} de bakkerij komme wy aanst fansels, earst it oare mar.
「パン屋にはもちろんすぐ寄るけど、最初はほかのにしましょう」(Bangma 1993²: 84 変更)

⇒ Wy komme aanst fansels { $\ast\emptyset$ /*by*} de bakkerij, earst it oare mar. 「もちろんパン屋にはすぐ寄るけど、最初はほかのにしましょう」

- ii) { $\emptyset$ /*Yn*} dy bosk wennet in tsjoender. 「あの森には魔法使いが住んでいる」(Hoekstra 1995: 106 変更)

⇒ In tsjoender wennet { $\ast\emptyset$ /*yn*} dy bosk. 「魔法使いがあ森には住んでいる」

- iii) { $\emptyset$ /*Yn*} hoefolle lannen hat Pyt west? 「ピトはどのくらいたくさんの国にいったことがあるのだろうか」(Hoekstra 1995: 109 変更)

⇒ Pyt hat { $\ast\emptyset$ /*yn*} safolle lannen west. 「ヨンはそんなにたくさんの国にいったことがある」

☞ オランダ語では前域か否かにかかわらず前置詞が必要である。

- i) { $\ast\emptyset$ /*Bij*} de bakkerij komen we zo dadelijk natuurlijk, eerst het andere maar. 「同上」

⇒ We komen { $\ast\emptyset$ /*bij*} de bakkerij zo dadelijk natuurlijk, eerst het andere maar. 「同上」

- ii) { *Ø/In } dat bos woont een tovenaar. 「同上」 (Hoekstra 1995 : 106 変更)
 ⇔ Een tovenaar woont { *Ø/in } dat bos. 「同上」
 - iii) { *Ø/In } hoeveel landen is Jan geweest? 「同上」 (Hoekstra 1995 : ib. 変更)
 ⇔ Jan is { *Ø/in } zoveel landen geweest. 「同上」
- ⇒ Hoekstra (1995 : 106) は西フリジア語にはこの場合、「空の場所の r- 副詞」(エ. empty locative R-adverb, ib. 106) があり、それが前域の名詞句に束縛 (エ. A'-bind) されているために上記の構文が可能であると述べている。(6)との類似性に注意。次の比較構文の用例を参照。
- フ. Jan hat mear jild fertsjinne as dat syn frou *op* rekkene hie. 「ピトは彼の妻が見込んでいたよりも多くの金をかせいだ」(← *op* ... rekkenje 「…を見込む」, dat は補文標識) (ib. 108)
 - オ. *Jan heeft meer geld verdiend dan zijn vrouw *op* gerekend had. 「同上」(← *op* ... rekenen 「…を見込む」) (ib. 108)
 - フ. Hy hat yn mear lannen west as dat Jan west hat. 「彼はヨンが行ったよりも多くの国に行ったことがある」(dat 補文標識) (ib. 108)
 - オ. *Hij is in meer landen geweest dan Jan geweest is. 「同上」

参考文献

(前回までに掲載したものを除く)

- Dyk, Siebren. 1988. “Oer it foarheaksel witte- (wittehoe-) en syn syntaktysk komôf”. Yn: Dyk/De Haan (útj.). 21-44.
- Hoekstra, Jarich. 1995. “Preposition stranding and resumptivity in West Germanic”. Yn: Hubert Haider/Susan Olsen/Sten Vikner (eds.). *Studies in comparative Germanic syntax*. Dordrecht/Boston/London. Kluwer. 95-118.
- Oosterhout, M. 1960. “It gebrûk fan preposysjes by plaknammen”. *Us Wurk* 9. 51-67.
- Paardekooper, P. C. 1958. *ABN-spraakunst. Voorstudies-tweede deel*. Den Bosch. Malmberg.

* 本稿は筆者の以下の論文に続く西フリジア語の文法構造の記述である。

「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44-1, 第 85 号, 1995, 37-81)

「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」(北海道大学文学部紀要 44-2, 第 86 号, 1995, 43-111)

「西フリジア語の文法構造—冠詞、名詞、形容詞—」(北海道大学文学部紀要 45-1, 第 88 号, 1996, 21-81)

「西フリジア語の文法構造—代名詞—」(北海道大学文学部紀要 45-2, 第 89 号, 1996, 79-176)

「西フリジア語の文法構造—数詞、副詞、der—」(北海道大学文学部紀要 45-3, 第 90 号, 1997, 171-246)

記述上の問題点については筆者の次の論文を参照。

「西フリジア語文法記述の問題点」(北海道大学文学部紀要 44-3, 第 87 号, 1996, 41-107)

* 本稿は平成 9 年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。

研究課題：「連続性概念による言語モデルの再構築—ドイツ語学の立場から—」,
基盤研究(B)(2), 課題番号 08451101 (研究代表者 北海道大学言語文化部助教授
佐藤俊一)